



真白き神々の降臨く
グ・ウォーズ Part 2
荒巻義雄
徳間書店
(12/31刊・¥1,200)

このシリーズも、三作目になる。前回、神の攻撃を受けて、亜空間へと投げ出された主人公ハイパー・マグドナルドは、一転、三億四千万年前の地球に現われ、そこで、大マゼラン星雲人のイナンナ姫と出会う。彼女らは、時空を超える手段で、地球の世界頭脳サインタ・マリヤと、連絡をかわしているという。やがて、もとの時空へと帰った主人公を待っていたのは、火星が神々の手に落ちたということ知らせだった。人類の敗色は、しだいに濃くなっていく。そんな中で、洋上に漂う浮遊都市は、徹底抗戦を決意し、サインタ・マリヤの指令の下に、密かに開発された重力制御装置で、宇宙へと飛び立とうとする……。

本シリーズには、少なくとも二つのテーマがある。一つは、太平洋戦争を宇宙に移した、「火星戦記」などの連作を含む、奔放な戦記物であり、もう一つは、扉の裏にも引用されたニーチェの言葉に象徴される、哲学的テーマ（「大いなる正午」）である。——もっとも、後者の全貌は、まだほとんど現われておらず、今後の展開が期待される。あと一冊で、舞台は太陽系を離れ、「宇宙都市シリーズ」風の展開になるようだ。

（俊）